

湖と生かゆる日々

Re public of Nicaragua

EARTH GALLERY Vol.135 [ニカラグア共和国]

地球ギャラリー

写真文・柴田大輔
フォトジャーナリスト





天日干しにする魚を浜でさばく。



塩漬けにして天日で干した高級魚のガスバルは、大切な収入源。



朝、舟で畑に向かう人々。湖周辺では、陸路よりも舟の方が便利だ。



午後、漁に向かう。岸に戻るのは翌日早朝。



湖で洗濯を済ませた女性たち。湖と生活とは密接な関わりがある。



父親の仕事を手伝いにきた男子。



魚に交じってカメラが捕れることもある。



夕日が沈むニカラグア湖の向こうに、
噴煙を上げるオメテペ島のシルエットが浮かぶ。



2015年、ニカラグア運河建設に反対する住民が
抗議のデモをくり返した。

明治24（1891）年、創刊18年目の『讀賣新聞』で「ニカラグア運河論」という全13回の連載がスタートした。そこには、「ニカラグア運河開通の日は、即ち是世界の商業を一変するの日なり」とあり、日本もそれに乗り遅れるなと続く。

当時、大西洋と太平洋を行き来するには、南米大陸の南端を迂回するしかなかった。15世紀のコロンブスによる「新大陸発見」以来、欧州諸国はふたつの大洋を最短で結ぶ運河建設を夢見てきた。その候補地として目をつけたのが南北アメリカ大陸の「くびれ」である中米地峡であり、ニカラグアは当初、その有力な候補地だったのだ。夢はその後、紆余曲折を経て近隣国のパナマで実現する。それが1914年に開通したパナマ運河だ。

冒頭の新聞記事が出たころの日本は、武士の世から明治を迎えて、近代国家の道を歩み始めたばかり。記事からは「新生国家」の野心が伝わってくる。

ニカラグア運河は結局実現しなかったものの、パナマ運河誕生後も、第二の運河として何度か計画が持ち上がっている。その大きな理由が、大型船舶の航行も可能と考えられる中米最大の湖・ニカラグア湖の存在だ。ニカラグア湖は淡水湖として世界で10番目の広さで、淡水生のサメやピンクのイルカなどの珍しい動植物が息づく生物多様性の宝庫としても知られている。

世界中の人に注目されてきたこの湖周辺では、どのような生活が営まれているのか。現地を訪ねると、湖の恵みを得て穏やかに暮らす人々の姿があった。

私が訪ねたのは、ニカラグア湖の北端にあるサンミゲリートという小さな町。そこでは、多くの人が牧畜や漁業に従事している。早朝、宿を出て散歩をすると、まだ赤い朝日を浴びながら牛の乳を搾る親子と出会った。声をかけると、搾りたての牛乳をその場で飲ませてくれた。温かくて濃い甘みが口の中に広がった。

午後、湖畔の広場に行くと、グローブとバットを手にした子どもたちが集まっていた。学校を終えた小学生らは毎日ここで野球をするという。中南米といえばサッカーのイメージが強いが、ニカラグアをはじめカリブ海に面した地域では野球が盛んだ。

遊ぶ子どもたちの近くで、釣り上げた1メートルを超える魚、ガスパルをさばく男性を見かけた。さばいた後は塩をまぶして天日で干す。皮がワニの表皮のように硬く、細く突き出た口には鋭い歯が並んでいる。

彼に、漁に同行したいと頼んでみた。「明日の午後3時くらいに出るから、来たらいいよ」とOKしてくれた。漁は翌日の明け方まで続くらしい。

船に乗るのは6人。出発ギリギリまで寝ていた人が、まだ眠そうにしている。湖に出ると、暖かい風に包まれる。遠くに、煙

を吐く活火山であるオメテペ島のきれいな円錐形が見える。最初の漁場に着くと、船は速度をゆるめて大きく弧を描きながら網を水面に落とす。しばらくして引き上げた網には、たくさんの魚だけでなく、カメもかかっていた。スープにして食べる。おいしいのだそうだ。この日は天候もよく、のんびりとした雰囲気の中で数か所の漁場を回り、翌朝4時ごろに岸へと戻った。私がこの土地を訪ねた2015年当時は、中国資本による運河建設計画が持ち上がっていた。都市部では「ニカラグア運河は国に発展をもたらす」と熱く夢が語られていたが、建設予定地である湖周辺では大規模な反対運動が起きていたとニュースで知った。住民の生活を無視した一方的な開発計画に、静かな暮らしを営んできた人々が怒っていた。

その後、反対運動が激しくなるなかで、結局資金難から運河計画は頓挫し、住民はもとの穏やかな生活に戻った。漁師の男性はこう話す。

「私たちは、ここでしか生きられないから、運河は今も夢のままにとどまっている。」

柴田大輔（しはた だいすけ）
フォトジャーナリスト。1980年、茨城県生まれ。写真専門学校を卒業後、フリーランスとして活動。メキシコ、アメリカ13か国を旅して多様な風土と人の暮らしに強く惹かれる。2006年からラテンアメリカの人々取材し、ウェブや雑誌で発表する。
<https://www.daisuke-shibata.com/>



左：理髪店で髪を切る男子。散髪代は約100円。中：「将来は先生になりたい」と、勉強に励む女の子。右：学校帰りに靴磨きのアルバイトに出る兄弟と出会った。

